自主臨床研究

腎臓・骨代謝研究グループ

「小児の骨密度データを用いた海綿骨微細骨構造評価の有用性の検討」 に関する研究

研究の対象

2017年9月～2022年9月に当科で骨密度検査を受けられた方

研究目的・方法

小児期に骨強度（骨の強さ）の低下のために骨折のリスクが高くなる病気には、骨形成不全症などの先天性の骨の病気のほか、ステロイド性骨粗鬆症のような治療の影響で生じてくるものも含まれます。骨強度を評価するためには骨密度検査を行います。当科では二重エネルギーX線吸収測定法（DXA法）により骨密度を測定しています。しかしながら治療経過中の定期検査で骨密度が増加していても骨折を繰り返すことがあり、骨密度の値のみで骨強度を評価することは難しい場合もあります。近年DXA法で得られたデータを用いて椎体（背骨の骨）などの海綿骨の微細構造を解析する方法が開発されました。解析により得られた海面骨スコア（TBS）と骨粗鬆症における椎体骨折との関連を検討した研究において、骨折リスクの評価にTBSを用いることができると報告されています。但しこれらの検討は成人を対象としたもので、小児において骨強度とTBSとの関連について調べられた報告は少なく、小児でのTBSの有用性についてはわかりません。そこで私たちは、小児のDXAデータに対してこの手法を用いて海綿骨微細構造を解析し、種々の臨床データと合わせて検討することで、小児の骨の病気でみられる骨強度の低下と骨折リスクとを評価するのにTBSが利用可能かを検証したいと考えています。

研究の方法は、まず既存のDXAデータを抽出し専用の解析ソフトを用いてTBSを算出します。また身長SD、骨折回数、骨代謝マーカー、治療内容、病型などの臨床データを収集します。そしてこれらのデータを合わせて検討することでTBS値と骨脆弱性との関連を検討します。

研究期間は、研究機関の長の許可日～2023年3月31日です。

研究に用いる試料・情報の種類

情報：生年月日、病歴（診断、病型、身長SD、骨折回数、骨変形の有無等）、治療歴（薬剤の種類、投与量等）、臨床検査値（骨代謝マーカー、IGF-1、カルシウム、リン、ALP等）、骨密度検査値等

お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒565-0871 吹田市山田丘2-2 ☎06-6879-3932

大阪大学大学院医学系研究科小児科学 北岡太一

研究責任者：

大阪大学大学院医学系研究科小児科学 大藺恵一